

Next Stage 3 日本語リライト演習

「ウィーンのカフェで春を待つ」

ウィーンを訪れるには、長い冬の終わりに近いときが大好きです。コートの襟を立てて、手袋をして寒くて寒くてたまらないというぐらいの方が、街がきれいに見えます。白い息を吐きながら、やっとたどりついたカフェ「デメール」で、ゆったりとしたソファに座り、おいしいザッハトルテと一緒に飲むウィンナーコーヒーは心から身体を温めてくれます。このカフェの店内といえば、ロココ風で昔のウィーンに逆戻りしたような感覚です。今にもモーツァルトやヨハン・シュトラウスのワルツが聞こえてきそうな感じがします。十分温まって外に出ると雪。でも春はすぐそこにやってくるような気配で、街を歩く人たちも何ということなくゆったりとしている感じです。

(30代前半の女性向け)

リライト例——1

ウィーンに行くなら、長い冬が終わる頃がいい！ コートの襟を立て、手袋をして、それでも寒くて寒くてたまらない——この街は、そんな季節の方がきれいに見えます。

白い息を吐きながら、やっとのことでたどり着いた先は、カフェ「デメール」。ゆったりとしたソファに身を沈め、おいしいザッハトルテと一緒にいただくウィンナーコーヒー。体が芯から温まっていきます。ロココ風のこのカフェに一步、足を踏み入れると、まるで昔のウィーンにタイムスリップしたみたい。今にもモーツァルトやヨハン・シュトラウスのワルツが聞こえてきそうなのです。

そうして、身も心もぬくぬくと温まって外に出ると、そこは雪の世界。でも春はもうすぐそこに来ている！ そんな気配の漂うなか、街を歩く人たちの足取りも心なしかゆったりと感じられるのです。

リライト例——2

ウィーンを訪れるとしたら、長い冬もそろそろ終わりに近づいた頃が大好きです。コートの襟をぎゅっと立て、手袋をして、凍てつく寒さに震えている季節は、街がきれいに見えます。白い息を吐きながらやっとの思いでたどりついたカフェ「デメール」。ゆったりとしたソファに身を任せ、おいしいザッハトルテを頬張りながら、ほかほかと湯気の立つウィンナーコーヒーをひと口、ふた口とすすむうち、凍えきった体は芯から温まってきます。

ロココ風の優雅な店内は、さながら、古き時代のウィーンに戻ったかのようで、今にもモーツァルトやヨハン・シュトラウスの美しいワルツが流れてきそうです。頭の先から足の先まで温まって出てくると、外はチラチラと雪。でも、春はすぐそこに来ている……そんな気配がして、街行く人たちの表情も心なしかゆったりとしている気がします。

（製造業の企業経営者向け）

リライト例—— 3

ウィーンに行くなら、長い冬の終わり頃がいい。コートの襟を立て、手袋をはめ、それでも寒くてしかたないという季節のこの街は美しい。白い息を吐きながら、やっとのことでカフェにたどりつく。「デメール」という店だ。

ゆったりとしたソファに腰を掛け、ザッハトルテを食べながら飲むウィンナコーヒーに、身体が芯から温まっていく。店内に目をやると、ロココ風のつくりだ。まるで昔日のウィーンに逆戻りしたような錯覚に陥る。今にもモーツァルトやヨハン・シュトラウスのワルツが聞こえてくるような……。

十分温まって外に出ると、雪がちらちらと降っている。しかし、春はすぐそこに来ている気がする。街に行く人たちも何となくゆったりと歩いているようだ。